



城東図書館 2022年10月21日～11月30日実施

まちのひと 宮崎悌二さんの紹介本リスト

牛乳石鹼共進社株式会社代表取締役社長

自分の小さな「箱」から脱出する方法	アービンジャー・インスティテュート:著 金森重樹:監修/富永星:訳	大和書房
<p>人はときに、多くの悩みを抱えて生きています。学校や職場での悩み、家庭内での悩み、自分自身の悩み、人それぞれ悩みは異なりますが、その原因の多くは対人関係にあると言われてしています。この本は、そんな対人関係での悩みを、自分の気持ちの持ちよう一つで、改善が図れる(かも知れない)、とても示唆に富んだ1冊だと思えます。</p> <p>人が瞬間的に心の中で発生したポジティブな感情に背き、その感情とは正反対のネガティブな行動をする時の、その1秒にも満たない心の中の変化を、とてもわかりやすく例を挙げ、そして、対話形式で描いています。ポジティブな感情に背き、ネガティブな行動をすることを、『『箱』に入っている状態』と定義し、その反対のポジティブな感情に従い、ポジティブな行動をすることを、『『箱』から出ている状態』と定義しています。</p> <p>私たちが、いかに「箱」の中に入らないようにするか、そして、「箱」からどうやって出てくるか、そのようなヒントを得られる良著です。</p>		
小説・上杉鷹山	童門冬二:著	集英社 他
<p>この本は、父親の書棚にあったのを取り出して読んだのを覚えています。1961年に、ジョン・F・ケネディがアメリカ合衆国の大統領に就任した際に、日本の記者団に「いちばん尊敬する日本人」を聞かれ、すぐに上杉鷹山の名を挙げたものの、質問した日本人記者たちは誰も上杉鷹山のことを知らなかったという逸話もあります。</p> <p>時は江戸時代の中期、極度の財災難にあえぐ米沢藩の立て直しを任されたのは、17歳で家督を継いで藩主となった上杉治憲(のちの鷹山)でした。当時の米沢藩の借金は莫大なもので、家臣の中には、「お家返上も止むを得ず」といった意見もあるほどでしたが、治憲が立て直しを決意し、藩の再興に奔走しました。</p> <p>強い決意のもと、藩主である治憲自らも質素な生活を送り儉約に励み、そして領民の声をよく聞きなが藩政の大改革を行う様は、現代の組織の運営に携わるリーダーにも通ずるところが多いのではないのでしょうか？</p> <p>「なせば成る なさねば成らぬ何事も 成らぬは人のなさぬ成りけり」これは、鷹山が残した有名な言葉です。</p>		
エルマーのぼうけん (世界傑作童話シリーズ)	ルース・スタイルス・ガネット:著	福音館書店
<p>この本は児童向けの本なのですが、私が幼少の頃に、親に読んでもらったのをよく覚えています。それ以来、自身でも何度も読み返した本ですが、この度の推薦文を書くにあたり、35年ぶりぐらいに読み直してみました。正直、ストーリーについてはうろ覚えでしたが、とところどころ、特徴的な場面やセリフなどは、記憶の片隅に残っており、とても懐かしく思いを感じながら楽しく読み返すことができました。</p> <p>主人公のエルマーが、「どうぶつ島」という島で太くて堅いロープで繋がれ、自由を奪われた1匹の竜を助けに行く冒険を描いた物語です。エルマーはさまざまな道具やユニークな方法で、警戒心が強く凶暴などうぶつ島の住人である動物たちの注意を逸らせたり、そして、ときには協力させたりして、竜を救出する冒険は、大人になった今でも、楽しむことができました。</p>		
おろしや国酔夢譚	井上靖:著	文藝春秋 他
<p>主人公である大黒屋光太夫ら17人を乗せた船「神昌丸」が、伊勢を出発し江戸に向かう途中に嵐に遭って遭難したのは、1783年のことでした。その後、8ヶ月間も舵を失い漂流し、当時ロシア帝国の属領だったアムチカ島に漂着しました。はじめは地元の人と言葉も通じず、また酷寒の地でもあったため、そこでの生活は想像を絶するような過酷なものだったようです。実際、この島で7人の仲間を亡くし絶望するものの、なんとか生きて日本に帰りたいという思いだけが、生き延びる糧となっていたようです。</p> <p>その後も、仲間を数名失いながらも、出会ったロシア人やフィンランド人に助けられ、ついにはロシア帝国の女帝・エカチェリーナへの拝謁が叶うなど、波乱に満ちた大黒屋光太夫の一生が描かれています。</p> <p>帰国後の光太夫の消息には諸説あるようですが、250年近くも前の飛行機も鉄道も無い時代に、ロシアの極東地域から西(ペテルブルグ)へと不自由な中を旅をするというスケールの大きな物語は、非常に興味深く引き込まれるように読み終えたのを覚えています。</p>		

●生産性 マッキンゼーが組織と人材に求め続けるもの 伊賀泰代:著 ダイアモンド社

●世界のエリートはなぜ「美意識」を鍛えるのか? 経営における「アート」と「サイエンス」 山口周:著 光文社

●文明の衝突 サミュエル・ハンチントン:著 集英社

●バカの壁 養老孟司:著 新潮社

●人を動かす D・カーネギー:著 新潮社他

●深夜特急 沢木耕太郎:著 新潮社

大阪市立城東図書館

大阪市城東区中央3-5-45 06-6933-

0350

<https://www.oml.city.osaka.lg.jp/>